

# 道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK

★三好礼子の★

## ナチュラル・ロード



三好礼子  
エッセイスト・国際リスト  
~http://www.fairytale.jp/~



プロに頼んだ光軸調整。最近計測方法が変わったとかでかなりズレてました。



ユーザー車検の受付。隣の登録コーナーも、平日の朝イチは空いてました。



検査のドキドキを誤魔化す笑顔? 山羊が飛んでる車、かわいいでしょ。

「えっ? どうやっていたかと思ってる。何人にも言われて静かに微笑む私。」「何でもやってみよう!」が口癖ですが、先月、やっとユーザー車検にトライしました。1995年の車検制度改正が行われた当時は、ワンボックスとラリー車と旧車を所持していましたが、これらは専門業者でない怖かったので、いつもお任せコース。軽自動車検査協会の評議員だった2002年から9年間は、軽トラと軽自動車だったので、何度も「今度の車検は自分で」と公言。検査場の現場視察にも行ってやる気満々だったのですが、安全に関わるようなので、やはり慎重。結局お任せでした。

私がオオカミにならなくて済んだのは、この春、知り合いから憧れのジムニーを譲られたのが、改めて車が入った気がしました。近頃は12ヶ月点検の項目をチェックし、必要に応じて交換と調整。これは夫の役割でしたが、改めて車が入った気がしました。

「いじめる」ということは、当たり前ですが安全に繋がります。検査予約もインターネット登録で簡単にできました。そして検査当日、トレン会場に向かうよりも緊張して松本市所に向かう私がいきました。引越してから登録で数度訪れていますが、ユーザー車検は別物。まず朝一で予約した検査場の民間整備工場で、難関の光軸調整です。かなり誤差があったので、プロに任せて大正解(しかも10800円)。協会の受付で自賠責保険加入、重量税6600円と検査手数料14500円を払って、いよいよ検査場へ向かいました。ドキドキ。

検査の方法は、評議会で何度も見聞した「マルチ・テスト」・2レインありですが、事前になんかことをやるのかを見学できません。そっちに向かっていたら、「今空いているので、入っていいですよ」と検査員に促され、慌てて車を動かしました。丁寧に検査員が説明してくれると聞いていましたが、まだ心の準備ができていない!

最後は乗ったままジャッキアップという遊園地のような下回り検査。言われるままにハンドルを左右に動かすのですが、コンコンと叩き、視認しつかりチエック。降りると、「これで終了ですが、フロントガラス左下に貼ってある昨年の6ヶ月点検のステッカーだけ剥がして下さい」とのこと。つまり、検査でチェックが入ったのは、ステッカーだけ。エンジンや操作の不備はなかったということ。で、「ヤッター!」。

これから10万キロ以上走るのであるジムニーくん、幸先のいいスタートとなりました。次回までは、もっと整備してあげねばと使命感もアップ。しかし軽自動車検査協会に来ると、検査員や協会の動きをいろいろチェックしてしまいます。が、今回は(も)完璧かつ好感が持てました。あのお嬢さんは、ポイント高し。その日は排気管とフォグランプ事件を思い出して、何度か大笑いとなりました。モータージャーナリストが肩書きの時代もあったなんて...: 言えない!

外観検査を終えたら入場です。すぐに停止し、車から降りて排ガス検査。受付にいた妙齢の女性が検査服で指示をくれます。「測定器を排気管に入れてください」。が、「こんなに素敵な女性が試験官なんだ」と驚いたからか、「排気管、排気管」と言いながら私が測定器を突っ込みそうになったのは、ガソリンの注入口。すぐに気づいて大笑い! 数値はOKで、次のサイドスリップ検査に進みますが、自走はバイクの一本橋と同じように緊張します。更に進むと検査員は男性になり、スピードメーター・ヘッドライト・ブレーキ検査。言われたままに操作しましたが、「フォグランプ点灯」と言われて、「はあ?」。恥ずかしなが

ら、この車ではまだ使ったことなかったで慌てましたが、検査員自らが来てサットとON。仕事柄、ほとんどの車種を把握しているみたい。

前回の中国古代都城理念に続き、もう一つ、アジアに広く伝播した都城理念にインド由来のものがあります。今回は、インド型都城理念の展開を追ってみたいと思います。

インドの都城理念は、紀元前3世紀の「アルタ・シヤーストラ」に由来すると言われ、ここで理想的な都市は、中心寺院を持ち、方形城郭、各辺に3つの門、城内は縦の街路と横の街路が交差しているとされています。この理想都市は、その後のインドの王朝でも大きな影響は見られませんが、ベトナムのオケオをはじめとして海洋交易によ



業者さんに大人気と思われるテキパキ&笑顔のお姉様。また会いたいなあ。



終わってから余裕で跳めた検査ライン。ユーザー車検はオススメですよ!

## 都市計画の中の街路③ インド型都城理念の展開と街路

東洋大学国際地域学部 准教授 志摩憲寿

インドの都城理念を最も積極的に取り入れたとされるのはアンコール王朝でした。アンコール朝は、プノムクレン山上で即位したジャヤヴァルマン二世(在位802年~834年)が、聖山信仰を具象化した伽藍を中心とした都城を造営したことに始まります。その後、アンコール都城は平地へと移りますが、その最終型である「アンコール・トム」(図)には、中心寺院「バイヨン」を方形城郭の中心に置き、東西南北各辺の中心に城門、城内の街路はグリッド状に走っています。また、城郭の東北と南西には巨大な矩形の水池「バライ」を備えるという形です。ここでのアンコール都城の中心寺院は聖山の象徴であり、水池はガンジス川に仮託したものであるとされています。

アンコール王朝以降のカンボジアではこのような都城は建設されませんでした。アンコールを陥落させたシャム王朝が築としたスコタイなどに見られました。その後はむしろ「川筋」の論理、すなわち、河口部に港町、中流に都城、上流に聖地を置くというパターンが強く現れ、都市は川を中心軸として線状に展開することになります。現在でも、例えば、タイにおける「タノン」(大通り)と「ソイ」(脇道)による市街地の構成にその名残が感じられます。

次回はヨーロッパ都市を訪ね、バロック都市の計画が必要になっていると思う。必要になってくると、古いモノから新しいモノへチェンジする必要があり。必要に応じて、古いモノから新しいモノへチェンジする必要があります。

ハット 思いました

クと言ふの足を手に入れた。若者は一気に行動範囲が広がって新しい世界に飛び込むのであります。なんてちょっと大袈裟です。ね。十八歳を間近にする。と、とにかく早く四輪免許を取りたくて取りたくて...。四十年前の話を思い出して、田舎と都会の差を意味しても、現代の若者は本当にクルマに興味がないようです。

傾けるのが、「古いものを大切に使う」、「モノを大切に使う」、「もったいない」などが虚しい言葉に感じてしまう事。加えてもう一言、虚しく感じる言葉があります。それは「キズナ」。毎朝の混雑した通勤電車の中。吊り革や手すりを掴んで我が身の安全を確保するよりは、両肘はってケイタイに夢中になり、回りへの対応が不可欠な状況から当然の事ですが、新エネルギーや環境問題に

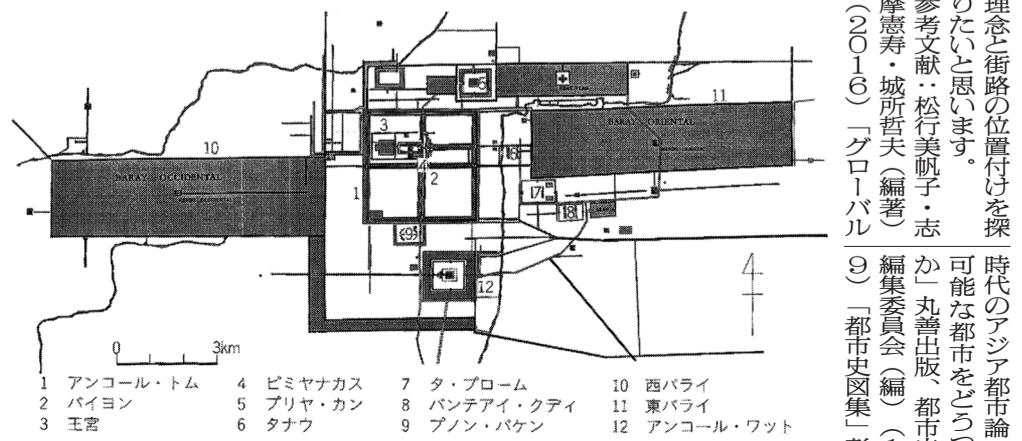
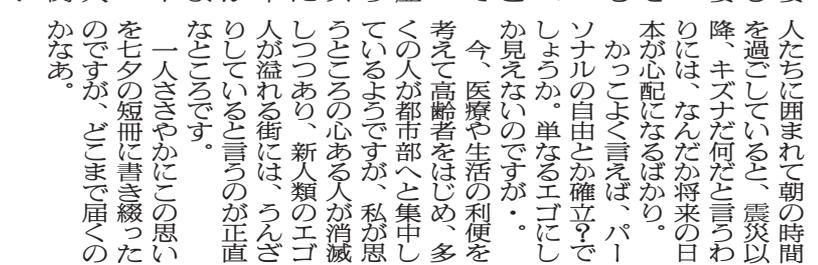
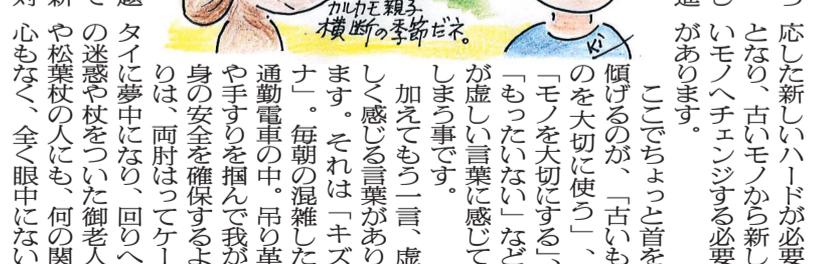
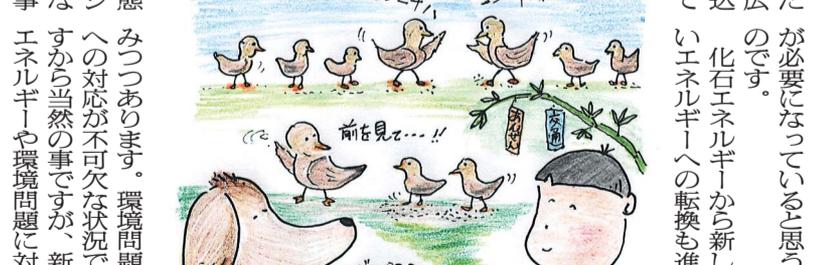
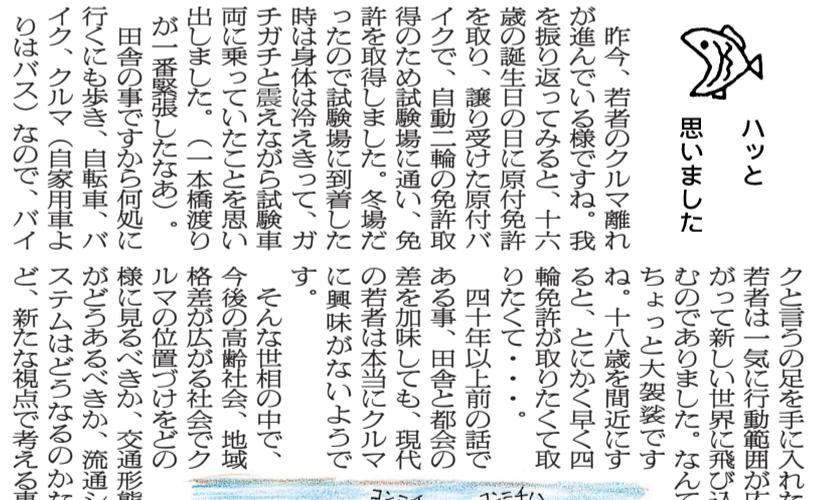
時代のアジア都市論: 持続可能な都市をどうつくるか 丸善出版・都市史図集編集委員会(編) (1999) 「都市史図集」 彰国社

はグリッド状に走っています。また、城郭の東北と南西には巨大な矩形の水池「バライ」を備えるという形です。ここでのアンコール都城の中心寺院は聖山の象徴であり、水池はガンジス川に仮託したものであるとされています。

アンコール王朝以降のカンボジアではこのような都城は建設されませんでした。アンコールを陥落させたシャム王朝が築としたスコタイなどに見られました。その後はむしろ「川筋」の論理、すなわち、河口部に港町、中流に都城、上流に聖地を置くというパターンが強く現れ、都市は川を中心軸として線状に展開することになります。現在でも、例えば、タイにおける「タノン」(大通り)と「ソイ」(脇道)による市街地の構成にその名残が感じられます。

次回はヨーロッパ都市を訪ね、バロック都市の計画が必要になっていると思う。必要になってくると、古いモノから新しいモノへチェンジする必要があります。

時代のアジア都市論: 持続可能な都市をどうつくるか 丸善出版・都市史図集編集委員会(編) (1999) 「都市史図集」 彰国社



アンコール都城の配置図(出典: 都市史図集編集委員会(編)(1999))